

## 2020年3月期 決算短信(日本基準)(連結)

2020年5月14日

上場会社名 宝ホールディングス株式会社  
 コード番号 2531 URL <https://www.takara.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木村 睦  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務・IR部長 (氏名) 宇佐美 昌和

TEL 075-241-5124

定時株主総会開催予定日 2020年6月26日 配当支払開始予定日 2020年6月29日

有価証券報告書提出予定日 2020年6月26日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期の連結業績(2019年4月1日～2020年3月31日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期	281,191	1.4	15,836	11.1	16,269	11.4	8,980	13.7
2019年3月期	277,443	3.5	17,804	14.0	18,359	14.1	10,411	5.6

(注) 包括利益 2020年3月期 6,467百万円 ( 10.8%) 2019年3月期 7,249百万円 ( 53.8%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2020年3月期	45.11		6.1	5.7	5.6
2019年3月期	52.15		7.1	6.4	6.4

(参考) 持分法投資損益 2020年3月期 81百万円 2019年3月期 36百万円

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期	283,882	181,329	52.1	747.39
2019年3月期	287,106	179,795	51.6	742.36

(参考) 自己資本 2020年3月期 147,762百万円 2019年3月期 148,197百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2020年3月期	11,744	3,690	11,653	44,541
2019年3月期	13,508	9,213	4,243	48,580

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額(合計)	配当性向(連結)	純資産配当率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2019年3月期				18.00	18.00	3,593	34.5	2.5
2020年3月期				20.00	20.00	3,954	44.3	2.7
2021年3月期(予想)				20.00	20.00		77.5	

### 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	120,000	12.7	300	96.1	400	94.9	0	100.0	0.00
通期	270,000	4.0	10,000	36.9	10,200	37.3	5,100	43.2	25.80

## 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期	199,699,743 株	2019年3月期	201,699,743 株
2020年3月期	1,995,163 株	2019年3月期	2,069,706 株
2020年3月期	199,062,788 株	2019年3月期	199,630,226 株

期末自己株式数

期中平均株式数

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料6ページ「1. 経営成績等の概況(4) 今後の見通し」をご覧ください。なお、連結業績予想の詳細及びセグメント別の業績予想につきましては、「決算短信補足資料」内(PAGE10/15～13/15)に記載しております。

(決算説明会内容の入手方法)

当社は2020年5月20日(水)に機関投資家・アナリスト向け説明会(Web)を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、説明会終了後遅滞なく当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	5
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	6
(4) 今後の見通し .....	6
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	7
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	8
(1) 連結貸借対照表 .....	8
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	10
連結損益計算書 .....	10
連結包括利益計算書 .....	11
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	12
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	14
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	15
(継続企業の前提に関する注記) .....	15
(会計方針の変更) .....	15
(セグメント情報) .....	15
(1株当たり情報) .....	17
(重要な後発事象) .....	18

## ○ 決算短信補足資料

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、緩やかな景気回復基調で推移したものの、2019年10月に実施された消費税率引き上げによる影響が尾を引くなど、個人消費においては力強さに欠ける状況が続きました。また、海外においても、米中間の通商問題の動向、中東情勢の不確実性の高まりに加え、直近では新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済は依然として先行きが不透明な状況にありました。

このような経済状況のもと、当社グループは、長期経営ビジョン「宝グループ・ビジョン2020」の達成に向けた最終ステップとしての「宝グループ中期経営計画2019」のもと、海外売上高比率をさらに高めるとともに、国内外で抜け・モレのない商品と競争優位性をもった商品を多数もつことで、他社に勝てる分野を数多く築き上げ、どんな環境変化が起ころうとも収益を大きく伸長させることができるバランスのとれた事業基盤を確立することを目指し、着実な事業活動に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高281,191百万円(前期比101.4%)、売上総利益108,617百万円(前期比99.9%)、営業利益15,836百万円(前期比88.9%)、経常利益16,269百万円(前期比88.6%)、親会社株主に帰属する当期純利益8,980百万円(前期比86.3%)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### 〔宝酒造〕

国内の人口減少や高齢化の影響などからアルコールの総消費数量は減少傾向が続いており、今後も厳しい事業環境が続くと思われまます。

このような環境のもと、宝酒造では、技術で差異化された商品の開発を継続するとともに、多様化する消費者ニーズにスピーディーかつタイムリーに対応するために商品開発体制を強化し、ラインアップの拡充を行うことで酒類・調味料の各カテゴリーにおける競争力を高めることに注力しております。また、高付加価値商品の売上構成比を高めることで利益率の向上を図りながら、食品メーカーとして安全・安心な商品を提供すべく原材料等の安全性確保と品質管理体制の強化にも取り組んでおります。

当セグメントの売上状況などは次のとおりであります。

#### 酒類

焼酎では、甲類焼酎については、家庭でつくるこだわりのレモンサワーのベース焼酎として最適な“こだわりのレモンサワー用<宝焼酎>”の拡売に努めました。本格焼酎では、“全量芋焼酎「一刻者」”を宮崎県黒壁蔵に新設した「石蔵」でじっくりと貯蔵・熟成し、芋本来の華やかな香りと上品ですっきりとした味わいがより際立つ酒質にリニューアルし発売いたしました。

清酒では、家庭向けには“松竹梅「天」”、業務用ルートでは“松竹梅「豪快」”の拡売に努めました。「霽」では、日常的に楽しめるスパークリング清酒として、“松竹梅白壁蔵霽「一果(いちか)」イチゴのような香りのスパークリング清酒、バナナのような香りのスパークリング清酒”を発売いたしました。

ソフトアルコール飲料では、基幹ブランドと位置付けております辛口チューハイ“タカラ「焼酎ハイボール」”の拡売に最注力いたしました。また、樽貯蔵熟成酒のおいしさを活かしたこだわりのレモンサワー“寶「極上レモンサワー」”の拡売に努めました。そして、本格的な“抹茶ハイ”が手軽に楽しめる“寶「極上抹茶ハイ」”をはじめとした「抹茶アルコール飲料」の発売など、ソフトアルコール市場のさらなる活性化に努めました。以上の結果、酒類全体の売上高は、119,645百万円(前期比99.7%)となりました。

**調味料**

調味料では、ユーザーニーズに基づいた商品や独自技術で差異化された高付加価値商品などの開発・育成に取り組んでおり、本みりん・料理清酒では、“お酒のチカラ”による調理効果の訴求を強化すべく、パッケージデザインのリニューアルを行いました。また、引き続き、発酵調味料などの食品調味料の拡売にも努めました。以上の結果、調味料全体の売上高は、24,311百万円(前期比103.1%)となりました。

**原料用アルコール等**

原料用アルコール等では、酒類の原料用アルコールや工業用アルコールなどの拡売に努めた結果、原料用アルコール等の売上高は、9,183百万円(前期比103.9%)となりました。

以上の結果、宝酒造の売上高は、153,141百万円(前期比100.4%)となりました。売上原価は、原材料価格の上昇により92,822百万円(前期比101.5%)となり、売上総利益は、60,318百万円(前期比98.9%)となりました。販売費及び一般管理費は、販売促進費や運送費などの増加により56,142百万円(前期比102.0%)となり、営業利益は、4,175百万円(前期比70.2%)となりました。

**[宝酒造インターナショナルグループ]**

宝酒造インターナショナルグループは、日本からの酒類の輸出や海外各地で酒類の製造・販売を行う海外酒類事業と海外の日本食レストランや小売店に日本食材などを販売する海外日本食材卸事業を展開しており、今後もさらなる拡大が期待される世界の日本食市場の広がりを背景に、「和食」に加え、日本伝統のお酒である清酒や焼酎といった「和酒」のおいしさを伝えることで、日本の食文化を世界に広め、世界の和酒・和食市場におけるリーディングカンパニーを目指して事業活動に取り組んでおります。

当セグメントの売上状況などは次のとおりであります。

**海外酒類事業**

地の利を活かした米国、中国での現地製品と、付加価値の高い日本からの輸出商品による清酒のラインアップ強化に継続して取り組むことで、売上を伸ばしました。特に中国では、日本から輸出した清酒の販売が好調に推移しました。加えて、引き続き世界的に需要が高いウイスキーの増加などにより、売上高は11,365百万円(前期比105.6%)となりました。

**海外日本食材卸事業**

世界的な日本食市場の拡大が続く中、引き続き営業拠点や物流拠点の拡充に取り組みながら、市場規模が最大の北米ではMutual Trading Co., Inc.、当社グループのシェアがNo.1である欧州ではFOODEX S.A.S.、Tazaki Foods Ltd.、Cominport Distribución S.L.を中心に売上を伸ばし、売上高は73,371百万円(前期比106.4%)となりました。

また、米国を中心に食料品等の輸出販売を行う東京共同貿易株式会社を新たにグループに迎え入れ、仕入先との関係強化、商品開発機能や米国向けの商品供給機能の拡充を実現いたしました。

以上の結果、宝酒造インターナショナルグループの売上高は、82,765百万円(前期比106.3%)となりました。売上原価は、海外日本食材卸事業における為替変動による仕入れコストの上昇などにより58,882百万円(前期比107.4%)となり、売上総利益は、23,883百万円(前期比103.8%)となりました。販売費及び一般管理費は、人件費や物流費などの増加により20,351百万円(前期比110.1%)となり、営業利益は、3,532百万円(前期比77.9%)となりました。

## 〔タカラバイオグループ〕

タカラバイオグループでは、グローバル企業かつ再生医療等製品企業としてのプレゼンスを向上させ、飛躍的な成長を目指すための取り組みを推進してまいりました。

## バイオ産業支援事業

バイオテクノロジー関連分野の研究開発活動がますます広がりを見せるなか、タカラバイオグループでは、こうした研究開発活動を支援する製品・商品やサービスを中心に展開する当事業をコアビジネスと位置付けております。

当連結会計年度は、理化学機器の売上高は前期比で減少し、主力の研究用試薬および受託サービスの売上高は前期比で増加いたしました結果、バイオ産業支援事業の売上高は、32,269百万円(前期比102.2%)となりました。

## 遺伝子医療事業

遺伝子医療事業では、がん等の疾患を対象とし、腫瘍溶解性ウイルスcanerpatrev(略称C-REV)や、独自技術である高効率遺伝子導入技術レトロネクチン法、高効率リンパ球増殖技術であるレトロネクチン拡大培養法、siTCR<sup>®</sup>技術を使用した遺伝子改変T細胞療法等の遺伝子治療の臨床開発を進めております。

当連結会計年度は、国内におけるNY-ESO-1・siTCR<sup>®</sup>遺伝子治療薬およびCD19・CAR遺伝子治療薬に関する共同開発・独占販売契約にかかる対価料および本契約にもとづく治験製品の売上高を計上いたしました結果、遺伝子医療事業の売上高は、2,295百万円(前期比94.0%)となりました。

以上の結果、タカラバイオグループの売上高は、34,565百万円(前期比96.4%)となりました。売上原価は、13,459百万円(前期比88.8%)となり、売上総利益は、21,105百万円(前期比102.0%)となりました。販売費及び一般管理費は、研究開発費などの減少により14,830百万円(前期比97.4%)となり、営業利益は、6,274百万円(前期比114.8%)となりました。

## 〔その他〕

その他のセグメントは、不動産賃貸事業や国内グループ会社の物流事業などであります。当セグメントの売上高は、前連結会計年度中に宝ヘルスケア株式会社の全株式を売却し、同社を連結の範囲から除外した影響などにより、31,801百万円(前期比97.1%)となりました。売上原価は、27,733百万円(前期比99.6%)となり、売上総利益は、4,067百万円(前期比83.2%)となりました。販売費及び一般管理費は、2,049百万円(前期比69.8%)となり、営業利益は、2,018百万円(前期比103.3%)となりました。

## 品種別販売実績

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	前年 同期比
品種	金額 (百万円)	金額 (百万円)	(%)
宝酒造			
焼酎	53,382	49,728	93.2
清酒	21,394	20,488	95.8
ソフトアルコール飲料	38,777	43,023	110.9
その他酒類	6,482	6,405	98.8
酒類計	120,037	119,645	99.7
本みりん	13,869	13,980	100.8
その他調味料	9,714	10,330	106.3
調味料計	23,583	24,311	103.1
原料用アルコール等	8,836	9,183	103.9
計	152,457	153,141	100.4
宝酒造インターナショナルグループ			
海外酒類	10,758	11,365	105.6
海外日本食材卸	68,954	73,371	106.4
その他	62	204	326.8
グループ内連結消去	△1,940	△2,175	—
計	77,834	82,765	106.3
タカラバイオグループ	35,841	34,565	96.4
報告セグメント計	266,132	270,472	101.6
その他	32,742	31,801	97.1
セグメント計	298,875	302,273	101.1
事業セグメントに配分していない 収益およびセグメント間取引消去	△21,431	△21,082	—
合計	277,443	281,191	101.4

(注) 販売金額には酒税を含んでおりますが、消費税等は含まれておりません。

## (2) 当期の財政状態の概況

## (資産)

当連結会計年度末における流動資産は168,820百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,191百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が2,150百万円、有価証券が8,736百万円それぞれ減少し、受取手形及び売掛金が1,777百万円、商品及び製品が1,695百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定資産は115,061百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,966百万円増加いたしました。これは主に建物及び構築物の増加などにより有形固定資産が9,258百万円増加し、のれんの減少などにより無形固定資産が1,214百万円、投資有価証券が4,422百万円それぞれ減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、283,882百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,224百万円減少いたしました。

## (負債)

当連結会計年度末における流動負債は55,466百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,355百万円減少いたしました。これは主に短期借入金が5,173百万円、未払酒税が2,534百万円それぞれ減少し、固定負債からの振替により1年内償還予定の社債が5,000百万円増加したことによるものであります。固定負債は47,086百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,402百万円減少いたしました。これは主に社債が5,000百万円、繰延税金負債が1,328百万円それぞれ減少し、リース債務が3,181百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、102,553百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,758百万円減少いたしました。

**(純資産)**

当連結会計年度末における純資産合計は181,329百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,534百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が3,776百万円増加し、その他有価証券評価差額金が2,689百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は、52.1%(前連結会計年度末は51.6%)となりました。

**(3) 当期のキャッシュ・フローの概況**

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益15,643百万円、減価償却費7,626百万円、売上債権の増加1,291百万円、たな卸資産の増加3,159百万円、未払酒税の減少2,534百万円、法人税等の支払額4,955百万円などで11,744百万円の収入と前年同期に比べ1,763百万円の減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入による支出6,785百万円、定期預金の払戻による収入10,564百万円、有価証券の取得による支出8,478百万円、有価証券の売却及び償還による収入11,507百万円、有形及び無形固定資産の取得による支出12,121百万円、投資有価証券の売却による収入1,636百万円などにより3,690百万円の支出と前年同期に比べ5,522百万円の支出減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出5,160百万円、自己株式の取得による支出2,000百万円、配当金の支払額3,589百万円などにより11,653百万円の支出と前年同期に比べ7,410百万円の支出増加となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物に係る換算差額を含めた当連結会計年度末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末より4,039百万円減少し、44,541百万円となりました。

**(4) 今後の見通し**

当社グループを取り巻く環境は、国内においては、高齢化・人口減少や若年層の飲酒離れによる酒類市場の長期的な縮小、世界的な人口増加による食料、資源価格の高騰や国内の人件費、物流費の高止まりが続くなど、今後も厳しさを増してくることが予想されます。一方、バイオ産業の市場や海外における世界的な和酒・日本食市場の拡大など、成長を見込める機会があるものの、中東情勢の緊迫化や米中をはじめとする通商問題を巡る緊張が増大しております。また、様々な社会・環境課題への対応が世界的規模で求められ、持続可能な社会づくりに向けた企業の責任はますます大きくなってきています。

このような状況を踏まえ、当社グループは、2026年3月期を最終年度とする長期経営構想

「TaKaRa Group Challenge for the 100<sup>th</sup>」を策定し、その実行計画の第一ステップとして、2023年3月期を最終年度とする3ヵ年の中期経営計画「宝グループ中期経営計画2022」をスタートさせました。

今後、長期経営構想のVision(ありたい姿)に掲げる「笑顔で繋がる豊かな暮らしを～Smiles in Life～」の実現に向けて、技術力、商品力、ブランド力をさらに向上させ、「和酒・日本食市場」「ライフサイエンス産業」における多様な価値を提供することで、宝グループの国内外での存在感を高めながら、持続的な成長と飛躍を目指してまいります。

翌連結会計年度(2021年3月期)の連結業績見通しにつきましては、売上高270,000百万円、営業利益10,000百万円、経常利益10,200百万円、親会社株主に帰属する当期純利益5,100百万円を予想しております。なお、連結業績予想の詳細及びセグメント別の業績予想につきましては、「決算短信補足資料」内(PAGE10/15～13/15)に記載しております。

また、長期経営構想及び中期経営計画の詳細につきましては、本日公表の<長期経営構想

「TaKaRa Group Challenge for the 100<sup>th</sup>」を策定>をご参照ください。

なお、翌連結会計年度の業績見通しは新型コロナウイルス感染症による影響が2020年7月頃まで続くことを前提に策定したものであり、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。



## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、国際会計基準の適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	49,415	47,265
受取手形及び売掛金	52,892	54,670
電子記録債権	6,887	6,347
有価証券	16,089	7,352
商品及び製品	40,600	42,295
仕掛品	1,341	1,801
原材料及び貯蔵品	4,093	4,879
その他	4,006	4,515
貸倒引当金	△315	△307
流動資産合計	175,011	168,820
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	52,808	59,337
減価償却累計額	△34,101	△35,189
建物及び構築物 (純額)	18,706	24,148
機械装置及び運搬具	80,774	86,331
減価償却累計額	△68,515	△69,661
機械装置及び運搬具 (純額)	12,259	16,670
土地	18,559	18,337
リース資産	1,025	1,833
減価償却累計額	△511	△586
リース資産 (純額)	514	1,247
建設仮勘定	6,105	1,531
その他	15,706	21,262
減価償却累計額	△11,274	△13,362
その他 (純額)	4,432	7,900
有形固定資産合計	60,576	69,835
無形固定資産		
のれん	12,400	11,750
その他	7,514	6,950
無形固定資産合計	19,914	18,700
投資その他の資産		
投資有価証券	26,143	21,720
退職給付に係る資産	877	651
繰延税金資産	1,648	1,807
その他	2,995	2,414
貸倒引当金	△60	△69
投資その他の資産合計	31,603	26,525
固定資産合計	112,094	115,061
資産合計	287,106	283,882

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,374	16,440
短期借入金	9,960	4,787
1年内償還予定の社債	—	5,000
未払酒税	10,224	7,690
未払費用	5,809	5,511
未払法人税等	1,879	1,886
賞与引当金	2,579	2,513
販売促進引当金	1,921	2,094
その他	9,072	9,543
流動負債合計	57,822	55,466
固定負債		
社債	25,000	20,000
長期借入金	5,415	5,448
リース債務	357	3,538
繰延税金負債	2,907	1,578
退職給付に係る負債	8,757	9,065
長期預り金	5,337	5,363
その他	1,713	2,092
固定負債合計	49,489	47,086
負債合計	107,311	102,553
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	13,226	13,226
資本剰余金	2,417	2,454
利益剰余金	124,788	128,564
自己株式	△1,368	△1,682
株主資本合計	139,064	142,563
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,814	7,125
繰延ヘッジ損益	114	84
為替換算調整勘定	△196	△1,102
退職給付に係る調整累計額	△599	△908
その他の包括利益累計額合計	9,133	5,199
非支配株主持分	31,597	33,566
純資産合計	179,795	181,329
負債純資産合計	287,106	283,882

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	277,443	281,191
売上原価	168,694	172,574
売上総利益	108,749	108,617
販売費及び一般管理費	90,945	92,781
営業利益	17,804	15,836
営業外収益		
受取利息	234	309
受取配当金	565	601
その他	660	547
営業外収益合計	1,461	1,458
営業外費用		
支払利息	387	403
為替差損	122	255
その他	396	366
営業外費用合計	905	1,025
経常利益	18,359	16,269
特別利益		
投資有価証券売却益	21	1,130
事業譲渡益	291	—
その他	383	342
特別利益合計	696	1,473
特別損失		
固定資産除売却損	318	319
減損損失	696	880
投資有価証券評価損	32	260
環境対策引当金繰入額	—	415
その他	350	223
特別損失合計	1,397	2,099
税金等調整前当期純利益	17,658	15,643
法人税、住民税及び事業税	5,443	5,077
法人税等調整額	△132	△125
法人税等合計	5,310	4,952
当期純利益	12,347	10,691
非支配株主に帰属する当期純利益	1,936	1,710
親会社株主に帰属する当期純利益	10,411	8,980

(連結包括利益計算書)

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
当期純利益	12,347	10,691
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,705	△2,689
繰延ヘッジ損益	228	△30
為替換算調整勘定	△3,646	△1,160
退職給付に係る調整額	25	△343
その他の包括利益合計	△5,098	△4,223
包括利益	7,249	6,467
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	6,083	5,046
非支配株主に係る包括利益	1,166	1,421

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	13,226	2,219	117,571	△1,367	131,649
当期変動額					
剰余金の配当			△3,194		△3,194
親会社株主に帰属する当期純利益			10,411		10,411
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		0		0	0
連結子会社株式の取得による持分の増減		197			197
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	197	7,217	△0	7,414
当期末残高	13,226	2,417	124,788	△1,368	139,064

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	11,520	△120	2,645	△583	13,461	31,106	176,217
当期変動額							
剰余金の配当							△3,194
親会社株主に帰属する当期純利益							10,411
自己株式の取得							△0
自己株式の処分							0
連結子会社株式の取得による持分の増減							197
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△1,705	235	△2,841	△16	△4,328	491	△3,836
当期変動額合計	△1,705	235	△2,841	△16	△4,328	491	3,577
当期末残高	9,814	114	△196	△599	9,133	31,597	179,795

当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位: 百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	13,226	2,417	124,788	△1,368	139,064
会計方針の変更による累積的影響額			75		75
会計方針の変更を反映した当期首残高	13,226	2,417	124,863	△1,368	139,139
当期変動額					
剰余金の配当			△3,593		△3,593
親会社株主に帰属する当期純利益			8,980		8,980
自己株式の取得				△2,000	△2,000
自己株式の消却		△1,686		1,686	—
連結子会社株式の取得による持分の増減		36			36
利益剰余金から資本剰余金への振替		1,686	△1,686		—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	36	3,700	△313	3,423
当期末残高	13,226	2,454	128,564	△1,682	142,563

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	9,814	114	△196	△599	9,133	31,597	179,795
会計方針の変更による累積的影響額						48	123
会計方針の変更を反映した当期首残高	9,814	114	△196	△599	9,133	31,645	179,918
当期変動額							
剰余金の配当							△3,593
親会社株主に帰属する当期純利益							8,980
自己株式の取得							△2,000
自己株式の消却							—
連結子会社株式の取得による持分の増減							36
利益剰余金から資本剰余金への振替							—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△2,689	△30	△905	△308	△3,934	1,921	△2,013
当期変動額合計	△2,689	△30	△905	△308	△3,934	1,921	1,410
当期末残高	7,125	84	△1,102	△908	5,199	33,566	181,329

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	17,658	15,643
減価償却費	6,490	7,626
減損損失	696	880
のれん償却額	865	847
環境対策引当金の増減額 (△は減少)	△2	408
受取利息及び受取配当金	△800	△911
支払利息	387	403
固定資産除売却損益 (△は益)	27	268
投資有価証券売却損益 (△は益)	△21	△1,128
事業譲渡損益 (△は益)	△291	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	32	260
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,900	△1,291
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△5,060	△3,159
仕入債務の増減額 (△は減少)	324	△340
未払酒税の増減額 (△は減少)	946	△2,534
未払消費税等の増減額 (△は減少)	244	△994
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	868	△595
その他	241	802
小計	19,708	16,188
利息及び配当金の受取額	782	917
利息の支払額	△396	△405
法人税等の支払額	△6,586	△4,955
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,508	11,744
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△15,310	△6,785
定期預金の払戻による収入	14,846	10,564
有価証券の取得による支出	△11,467	△8,478
有価証券の売却及び償還による収入	12,528	11,507
有形及び無形固定資産の取得による支出	△10,671	△12,121
投資有価証券の売却による収入	33	1,636
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	350
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△53	—
事業譲渡による収入	1,067	—
その他	△187	△365
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,213	△3,690
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△304	△5,160
自己株式の取得による支出	△0	△2,000
配当金の支払額	△3,191	△3,589
リース債務の返済による支出	△219	△641
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△203	—
その他	△323	△262
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,243	△11,653
現金及び現金同等物に係る換算差額	△812	△439
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△760	△4,039
現金及び現金同等物の期首残高	49,341	48,580
現金及び現金同等物の期末残高	48,580	44,541



## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

## (会計方針の変更)

(ASU第2014-09号「顧客との契約から生じる収益」の適用)

米国会計基準を適用している在外子会社において、ASU第2014-09号「顧客との契約から生じる収益」(以下、「ASU第2014-09号」という。)を当連結会計年度の期首から適用しております。ASU第2014-09号の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

これに伴い、約束した財またはサービスが顧客に移転された時点で、当該財またはサービスと交換に権利を得ると見込む対価を反映した金額で、収益を認識しております。

なお、当会計基準の適用が連結財務諸表に及ぼす影響は軽微であります。

(IFRS第16号「リース」の適用)

国際財務報告基準(IFRS)を適用している在外子会社において、IFRS第16号「リース」(以下、「IFRS第16号」という。)を当連結会計年度の期首から適用しております。IFRS第16号の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

これに伴い、借手は、原則としてすべてのリースについて、適用開始日に資産および負債を認識しております。

なお、当会計基準の適用が連結財務諸表に及ぼす影響は軽微であります。

## (セグメント情報)

## 1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高経営意思決定機関が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、事業会社である「宝酒造(株)」「宝酒造インターナショナル(株)」「タカラバイオ(株)」を中核企業とする各企業グループ及びその他で構成されており、当社は各事業会社を統括する持株会社であります。各事業会社は、各々取り扱う製品・商品やサービスについて国内あるいは海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。したがって、当社グループは、製品・商品やサービスの内容を基本としながらも、経営責任・業績評価の単位を重視し、「宝酒造」「宝酒造インターナショナルグループ」及び「タカラバイオグループ」の3つを報告セグメントとしております。

「宝酒造」は、主に国内における酒類・調味料の製造・販売を行っております。「宝酒造インターナショナルグループ」は、日本からの酒類の輸出、海外における酒類の製造・販売や日本食材卸事業を行っております。「タカラバイオグループ」は、研究用試薬、理化学機器などの製造・販売や受託サービス及び遺伝子治療・細胞医療に関わる研究開発を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成に用いた会計処理基準と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。また、セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度(自2018年4月1日 至2019年3月31日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	宝酒造	宝酒造イ ンターナ ショナル グループ	タカラバ イオグル ープ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	151,805	77,573	35,432	264,811	12,627	277,439	3	277,443
セグメント間の内部 売上高又は振替高	651	261	408	1,321	20,114	21,435	△21,435	—
計	152,457	77,834	35,841	266,132	32,742	298,875	△21,431	277,443
セグメント利益	5,948	4,532	5,463	15,944	1,954	17,899	△95	17,804
セグメント資産	92,682	68,003	71,040	231,726	19,315	251,041	36,064	287,106
その他の項目								
減価償却費	2,248	1,013	2,691	5,953	219	6,172	317	6,490
のれんの償却額	—	362	502	865	—	865	—	865
持分法適用会社への 投資額	—	—	—	—	—	—	1,526	1,526
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	3,128	1,162	6,002	10,293	230	10,523	148	10,671

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業及び国内グループ会社の物流事業等であります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高は、当社において計上した業務受託収入であります。

(2) セグメント利益は、セグメント間取引消去99百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益△194百万円であります。

(3) セグメント資産は、事業セグメントに配分していない当社の資産59,694百万円、その他の調整額(主としてセグメント間取引消去)△23,629百万円あります。当社に係る資産は、余資運用資金や長期投資資金などあります。

(4) 減価償却費は、主として当社において計上した減価償却費であります。

(5) 持分法適用会社への投資額は、事業セグメントに配分していない持分法適用会社への投資額であります。

(6) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額は、当社において計上した増加額であります。

3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自2019年4月1日 至2020年3月31日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	宝酒造	宝酒造イ ンターナ ショナル グループ	タカラバ イオグル ープ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	152,496	82,456	34,563	269,516	11,670	281,186	5	281,191
セグメント間の内部 売上高又は振替高	644	309	1	955	20,131	21,087	△21,087	—
計	153,141	82,765	34,565	270,472	31,801	302,273	△21,082	281,191
セグメント利益	4,175	3,532	6,274	13,982	2,018	16,001	△164	15,836
セグメント資産	93,083	75,183	75,009	243,276	19,577	262,853	21,028	283,882
その他の項目								
減価償却費	2,736	1,434	2,921	7,093	216	7,309	317	7,626
のれんの償却額	—	350	496	847	—	847	—	847
持分法適用会社への 投資額	—	—	—	—	—	—	1,608	1,608
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	5,520	2,696	5,365	13,582	219	13,802	393	14,195

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業及び国内グループ会社の物流事業等であります。
2. 調整額の内容は以下のとおりであります。
- (1) 外部顧客への売上高は、当社において計上した業務受託収入であります。
- (2) セグメント利益は、セグメント間取引消去57百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益△222百万円であります。
- (3) セグメント資産は、事業セグメントに配分していない当社の資産51,819百万円、その他の調整額（主としてセグメント間取引消去）△30,791百万円であります。当社に係る資産は、余資運用資金や長期投資資金などであります。
- (4) 減価償却費は、主として当社において計上した減価償却費であります。
- (5) 持分法適用会社への投資額は、事業セグメントに配分していない持分法適用会社への投資額であります。
- (6) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額は、事業セグメントに配分していない当社の増加額493百万円、セグメント間取引消去△99百万円であります。
3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

前連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

(単位：百万円)

	宝酒造	宝酒造インターナショナルグループ	タカラバイオグループ	その他	全社・消去	合計
減損損失	—	—	696	—	—	696

当連結会計年度（自2019年4月1日 至2020年3月31日）

(単位：百万円)

	宝酒造	宝酒造インターナショナルグループ	タカラバイオグループ	その他	全社・消去	合計
減損損失	—	—	880	—	—	880

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	742.36円	747.39円
1株当たり当期純利益	52.15円	45.11円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	179,795	181,329
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	31,597	33,566
(うち非支配株主持分 (百万円))	(31,597)	(33,566)
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	148,197	147,762
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数 (千株)	199,630	197,704

3. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	10,411	8,980
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	10,411	8,980
普通株式の期中平均株式数 (千株)	199,630	199,062

## (重要な後発事象)

## (重要な設備投資)

当社の連結子会社であるタカラバイオ株式会社は、2020年1月23日開催の取締役会において、同社連結子会社であるTakara Bio USA, Inc. (以下、「TBUSA」という。)で以下の設備投資を行うことを決定し、5月11日(米国時間)に土地・建物の取得を完了いたしました。

## 1. 設備投資の目的

TBUSAの新たな事業所として使用することを目的としております。なお、同社は、2021年8月の現事業所の賃貸契約終了に合わせて、新事業所へ移転する予定であります。

## 2. 設備投資の内容

(1) 所在地	米国 カリフォルニア州サンノゼ市
(2) 用途	新事業所用土地・建物および内装工事等
(3) 投資金額	約76百万米ドル

## 3. 設備の導入時期

2020年5月	土地・建物取得完了
2021年	内装工事完了予定
2021年	移転完了予定

## 4. 当該設備が営業・生産活動におよぼす重大な影響

当該取得による2021年3月期の連結業績に与える影響は軽微であります。

## (重要な契約の締結)

当社の連結子会社であるタカラバイオ株式会社(以下、「タカラバイオ」という。)は、2020年5月11日付でTasly Biopharmaceuticals Co., Ltd. (本社：中国上海市、以下、「タスリー社」という。)と、腫瘍溶解性ウイルスcanerpaturev(略称C-REV)の中国における独占的な開発、製造、販売を許諾するライセンス契約を締結いたしました。

本契約に基づき、タカラバイオはタスリー社にC-REVの製造技術を移管し、開発情報を提供します。一方、タスリー社は中国(香港とマカオを含み、台湾は含まれない。)で、C-REVを新規抗癌剤として中国国内で上市することを目指し、臨床開発を進めます。

また、本契約締結に伴い、タカラバイオはタスリー社より契約一時金、契約維持金および開発の進捗に応じたマイルストーン達成金を受領いたします。上市後は、売上高に応じたランニングロイヤリティとともに、売上高目標達成の際にはマイルストーン達成金を受領いたします。